

がん患者サバイバーシップへの支援

はるやま やすお おぐま ゆうこ
春山 康夫¹ 小熊 祐子²

1: 獨協医科大学医学部公衆衛生学講座

2: 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・スポーツ医学研究センター

【本シンポジウムの趣旨・目的】

近年、がん医療とがん予防の進歩は目覚ましく、30年前に比べてがん患者の生存期間は著しく延長し、全がんの5年生存率は6割となっている。がんは必ずしも早期に致命的な疾患ではなく、治療後の期間が長いことも多いという認識は既に広がっている。一方、国民の2人に1人が生涯でがん罹患するリスクがあると言われており、わが国のがん患者数は増加し続けている。以上の現状を踏まえた上で、一旦がんと診断され継続治療中あるいは治療後に、身体的・心理的・社会経済的なさまざまな問題を抱くサバイバーにどのように寄り添い、支援するかは、保健医療従事者だけでなく社会全体にとって重要な課題である。

そこで、本シンポジウムでは、近年注目されるがんサバイバーシップの研究と支援に携わる最前線の先生方をお迎えし、特に治療と就労の両立支援、リハビリテーションから身体活動・運動に焦点を当てた内容の講演を行う予定である。本健康教育学会会員及び関係者の多くは、医療保健や産業保健分野の現場の従事者である。がんサバイバーシップに関する最新動向を提供すると共に、一次予防、二次予防と同様に三次予防の重要性や健康教育・ヘルスプロモーションの多様性を訴えることとしている。

なお、本シンポジウムは、第27回日本健康教育学会学術大会運営委員会と日本健康教育学会学術委員会との共催として企画したものである。

【演者と演題】

1. 演者：遠藤源樹（順天堂大学医学部公衆衛生学講座准教授）
演題：職域におけるがん治療と就労の両立支援（20分）
2. 演者：小熊祐子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・スポーツ医学研究センター准教授）
演題：がんサバイバーの身体活動・運動と健康増進（20分）
3. 演者：井上順一郎（神戸大学医学部附属病院リハビリテーション部理学療法士）（20分）
演題：がん治療中のサバイバーに対するリハビリテーション
4. 演者：崎山紀子（東京医療保健大学看護学部助教・保健師）
演題：がん患者の治療と就労支援における産業保健師の役割—中小企業の現状と課題—（20分）

各演題の発表が終了した後に、総合討論（約40分）を行います。